

## 技能五輪全国大会開催 造園職種24名が技能を競う



技能五輪全国大会 造園職種参加選手での記念撮影

第62回技能五輪全国大会が、11月23日～24日に愛知県で開催された。42職種で競技が行われ全国から約1,000名の選手が参加。造園競技には24名が参加し、23・24日の2日間をかけて常滑市・旧常滑高校グラウンドにて実施された。競技や開・閉会式の様子は動画配信された。

本大会は、国内の青年技能者(原則23歳以下)を対象に、技能競技を通じ青年技能者に努力目標を与えるとともに、技能に身近に触れる機会を提供するなど、技能の重要性や必要性を広く一般にもアピールし、技能尊重気運の醸成に資することを目的として毎年実施している大会で、造園競技の実施には日造協と(一社)日本造園組合連合会が協力し実施している。

競技課題は、3.5m×2.5mの区画への石積、敷石、小舗石の敷設などの石作業、自由課題として角材と竹材による垣根の工作、中低木の植栽や芝張り等であり、石や樹木に関する深い知識と空間構成のデザインセンス、それらを表現する



金賞を受賞した山本拓夢氏の作品

施工能力や、10時間の競技時間内に作庭を完成させなければならない体力など、さまざまな要素が必要とされる。

今回は晴天に恵まれたものの、連日風が強く、砂ぼこりの舞う中での開催となった。出場した選手は皆、大会に向けて放課後や仕事後に重ねた練習の成果を発揮していた。

結果、指定された寸法や高さの確保、出来栄え、工具の取り扱いや安全作業などを採点し、接戦のなか奈良県造園技能士会所属の山本拓夢氏が金賞を、日造協会員では(株)天本緑地造園(佐賀県)の吉岡眞那斗氏が敢闘賞を受賞した。

また競技終了後には、2024年9月にフランス・リヨンにて開催された技能五輪国際大会にて銀賞を獲得した、岡山県の田子雅也氏・福元健悟氏ペアを招き、受賞報告会が開催された。

休憩時や競技後に選手同士や指導者との交流もあり、将来造園界を担う若手の育成にもつながるこの大会を、今後も業界として盛り上げていく必要性を感じた。(技術委員会 技能五輪等部会長 坂元 博明)



会場の様子

## 樹林

(一社)日本造園建設業協会監事

キンキ緑地建設(株) 大原 優



### もう一度緑の価値を考える

師走、年の瀬となりました。衝撃から始まった令和六年もあと少しで終いとなり、新しい年がやってきます。この一年を振り返ります。

まず、地殻変動・異常気象により全国各地で自然災害が発生しました。甚大な国土の損失は耐え難いものであり、被災にあわれた地域の悲鳴と、これからの生活に対する不安と心痛はいかほどのものか。想像を絶するに余りある状況です。被災にあわれた皆様へお見舞いを申し上げますと共に復旧復興が一刻も早く成し遂げられることを願うばかりです。

そして経済、アメリカがくしゃみをしたら日本は風邪を引くというような単純な背景は色褪せて、各国の思惑が錯綜し株価・為替の乱高下は当たり前のようになり羅針盤をどこに見立てれば良いのか迷走が続くようです。

さて、緑のこと。これは私達の領域です。緑がもたらす風景がいかに大切であるかを世の中も幾ばくか認識されたように思います。

私は大阪在住です。来年四月に大阪・関西万博が開催されます。会場は残土で作られ長年放置されていた夢洲という所です。

このエリアを活性化させるということについては大賛成です。パンパン草も生えない所だったので、弊社はこの会場から車で五分の距離にあります。ほぼ毎日この工事進捗を見ます。インフラは完成したようで、パビリオンの建設が急ピッチで進められていま

す。成功を祈ります。

しかし、緑を忘れています。会場内はそれなりに緑を取り入れていますが。この島に街路樹が一本もありません今のところ。橋梁やトンネルからの寄り付きを優先されるのはやむをえないことですが、隣地の舞洲の中央分離帯に立派に育ったケヤキがありました。会場アクセスが優先で無残にも伐採されました。そのくせ大阪市都市公園の樹木を移植してサスティナビリティ<sup>のたま</sup>って宣う。

何でしょうか、持続可能な社会って。その折々で緑を重宝したり蔑ろにしたり、もてあそばれています。

世界を見ます。ロサンゼルス、大谷翔平選手の大活躍。パリオリンピック・パラリンピックの日本人選手の大躍進。さることながら空撮で映し出される風景がとても美しく見惚れます。何故か、緑の美しさとその価値を認識しておられる。

日本を見ます。大阪では梅田北ヤードにグラングリーンという緑が生まれました。しかしこれは建物の中に緑、一方都市公園の新しい形としてPFI等で緑の中に建物。空撮された景色は陳腐のように感じる。残念です。

個体が立派でもそれだけでは未熟、その周囲、アクセスの楽しさ美しさがあればこそ際立つ。個々の個性が活かされるのは周りが充実してこそ、それが緑。緑ありき街あり。

もうすぐ新年です。皆様、良いお年をお迎え下さい。

## 造園・環境緑化産業振興会 代表者会議を開催

造園・環境緑化産業振興会は、11月18日、15時30分より都市計画協会において、6団体の代表者会議を開催し、16時30分から国土交通省都市局公園部において、5名にご参加いただき、意見交換会を開催した。

産業振興会は、平成9年4月に「造園・

環境緑化」の理念と技術を具体的に産業として展開させ、その再生と隆盛を勝ち取るために結成された組織。

(一社)日本造園建設業協会、(一社)日本植木協会、(一社)日本造園組合連合会、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(一社)日本公園施設業協会、(一社)日本運動施設業協会の6団体で構成される。



あいさつする和田新也会長



あいさつする片山壮二課長

## 予算・税制等に関する政策懇談会で要望

11月20日、自由民主党予算・税制等に関する政策懇談会に、日造協の藤吉信之専務理事が出席。会議では、藤吉専務理事から下記の令和7年度公園・緑地に関する予算等を要望した。

- 一、都市公園等関係予算の確保・拡大
- 二、都市の諸課題に対応した緑化等の取り組みへの支援
- 三、造園工事の品質の確保・向上等



要望を行う藤吉信之専務理事



政策懇談会のようす

## 総支部長・支部長合同会議 令和6年度事業の実施状況などを説明



総支部長・支部長合同会議のようす

総支部長・支部長合同会議は11月7日、14時から17時、神奈川県川崎市高津区のHOTEL ARU KSP ギャラリーで開催した。

会議は、和田新也会長のあいさつの後、議事では、令和6年度事業の実施について、①「労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針」への対応、②技術情報の共有（造園デジタル図書館の設置）、③造園新技術の情報収集・発信、④今年度の要望提言活動、⑤日造協会員の求人情報とりまとめサイト設置と登録

のご案内、⑥日造協の資格制度の実施報告、⑦「日造協の事業活動に関するアンケート」へのご協力のお礼、⑧「会員拡大推進」、⑨「出前講座」、⑩フィリピン・リサール公園内日本庭園の修復協力、⑪各種表彰の推薦基準、⑫日造協行事予定表の11項、総支部・支部の報告等、「時間外労働の上限規制適用の影響」「適正工期の確保の状況」についての意見交換、2027 国際園芸博覧会、第42 回全国都市緑化ぎふフェアの紹介、かわさきフェア視察及び事務局連絡を行い、閉会した。

## 『花と緑のつどい』開催

福田紀彦川崎市長ら多数の来賓が参加



花と緑のつどいの冒頭、あいさつする和田新也会長

『花と緑のつどい』は11月7日、総支部長・支部長合同会議に引き続き、18時からHOTEL ARU KSP ホールで開催した。

つどいは、鈴木義人関東・甲信総支部長の開会の言葉に続き、和田新也会長が来賓の方々に日頃からの高配に対してお礼を述べた後、日造協は、生き物である植物を扱う唯一の建設業の全国団体として、花と緑に包まれた豊かな環境づくりに如何に貢献するかを考えながら、施工能力の向上や街路樹剪定士を始めとする技術者の育成、また、防災協定の締

結などの諸活動に取り組んでおり、その一環として、今回は、第41回全国都市緑化かわさきフェアに合わせ、全国各地から参集し、先程までさまざまな課題への対応に関して意見交換を行ったことを報告。翌日のかわさきフェア会場の視察予定を紹介。「かわさきフェアのテーマは、『みどりで、つなげる。みんなが、つながる。』で、全国各地からお越しの皆様には、ここ川崎で緑豊かな環境づくりはもちろんのこと、多くのことを学び取っていただき、今宵のこの「つどい」が、多くの方々との交流のつぼみが膨ら



福田紀彦川崎市長

片山壮二課長

橋本和也副知事

持田文男会長

み、花が咲き、実り多きものとなりますことを心から祈念している」とあいさつした。

その後、福田紀彦川崎市長（都市緑化かわさきフェア実行委員会会長）、片山壮二国土交通省都市局公園緑地・景観課長、黒岩祐治神奈川県知事（代理・橋

本和也神奈川県副知事）から、ご祝辞をいただき、来賓紹介、祝電披露の後、持田文男神奈川県議会自民党みどりの会会長の発声で乾杯、懇談となり、盛況の中、岩井雅彦神奈川県支部長の閉会のことばで散会となった。

## かわさきフェア現地視察 等々力緑地会場、富士見公園会場



全国都市緑化かわさきフェア現地視察は11月8日、神奈川県支部の桑原副支部長、事務局の宮越氏、事業委員の先導で、等々力緑地へ移動。

等々力緑地会場のご案内を井上副事業委員長からいただき視察し、その後、富士見公園に移動。富士見公園会場のご案内を関根事業委員からいただき視察しました。



全国造園デザインコンクール「みどりの広場プラン賞」受賞作品の図面をもとに神奈川県支部の方が実際に作庭した④（富士見公園会場）、視察参加者で集合写真⑤

### 学会の目・眼・芽 第140回

## 日本造園学会創設100周年を迎えるにあたって

（公社）日本造園学会会長、千葉大学大学院園芸学研究院教授 柳井 重人

日本造園学会は、1925年に創設されました。現在、約2,200人の会員を擁し活動を進めています。会員は大学・研究機関の研究者のみならず、国・地方公共団体の行政担当者、民間のコンサルタント、設計事務所、施工管理会社等に勤務する実務者に至るまで、幅広く多様です。（一社）日本造園建設業協会は、学会と最も早い時期に包括協定を締結した団体の一つであり、学会の理事や各種委員会委員として数多くの方々に参加、ご尽力をいただいているところです。



学会は2025年に学会創設100周年を迎えます。

100周年記念事業では、100周年記念式典・全国大会・支部大会の開催、100周年記念誌（本誌および作品集の2分冊）の刊行、学会ホームページのリニューアル、本誌「ランドスケープ作品集」のバックナンバーのデジタルアーカイブ化、若手研究者・技術者の活動支援等を予定しています。

100周年記念式典・全国大会は、2025年5月16日（金）から18日（日）まで、東京大学本郷地区キャンパス（安田講堂ほか）にて開催されます。その後、各支部の100周年記念支部大会を経て、関東支部大会（東京農業大学・2025年12月開催予定）でクロージングを迎えます。全国大会・支部大会のほとんど

のプログラムは、非会員の方々も参加できますし、造園CPDプログラムとして申請します。



これらの事業以外にも、学会では、本誌「ランドスケープ研究」の100周年特別連載、（公財）都市緑化機構との共同企画によるWEBマガジン「ランドスケープアーキテクトは明日の都市に貢献できるか」の連載等、この時期に相応しい発信をはじめています。

また、賛助会員特典も見直しました。学会の全国大会の参加費について、賛助会員の社員・職員の方々は学会の正会員と同等の価格とすることや、企画展示への出展料金を賛助会員割引価格（50%割引）とすることなどです。学会として企業・団体の方々とのより一層の交流促進を目指しています。



学会は、創立100周年を期に、造園・ランドスケープ分野のこれまでの歩みを振り返り、これからの活動を展望しつつ、より一層社会に貢献できる組織、活動を目指していきます。そのために、上述したような学会活動にご理解をいただくとともに、100周年記念事業を推進するための寄附、100周年記念全国大会・支部大会への参加、賛助会員としての入会等、皆様方のご協力とご支援を賜ることができましたら幸いです。皆様方の学会活動へのご参加を心よりお待ちしております。



お問い合わせ先（学会事務局）

Tel:03-5459-0515

E-mail:office @ jila-zouen.org



技術講演会

地域リーダーズ発足 15 年目を迎え、2024 年度の改選で総リーダーが廣部修平となり、メンバーも大幅に入れ替わり新たな体制で、勉強会を北海道にて 10 月 4 ～ 5 日に開催した。今回は、その報告を行う。

今回の地域リーダーズ勉強会は、総支部代表の 10 名と総リーダーの計 11 名が参加し、1 日目は北海道造園緑化建設業協会が主催する技術講演会、2 日目にはファイターズの本拠地で野球観戦だけでなくグルメやアクティビティも楽しめるボールパーク「エスコンフィールド HOKKAIDO」と、恵庭市にある自然や動物を身近に感じられるエコロジーテーマガーデン「えこりん村」、緑化フェア跡地の「はなふる」の視察を行った。



エスコンフィールド

### 《1 日目》技術講演会

この技術講演会は、北海道における造園技術の向上と情報の共有のため毎年実施しているもので、平成 24 年度から開催しており今回で 12 回目となる。第 1 部では「高等学校における造園教育の現状と課題」というテーマで、埼玉県立秩父農工科学高等学校教諭である栗原正博氏が講演し、実業高校の状況と進学や就職状況、保護者とのやりとりなどを分かりやすく説明していただいた。



集合写真

また、第 2 部では、日造協の酒井一江女性部会長が、「これからの造園技術者のロールモデルを考える」というテーマで講演した後、パネラーとして地域リーダーズの幹事 3 名（廣部、入山、山田）が登場し、入社してからこれまでの苦労話や今後の展望についてのディスカッション（詳細は下記の記事参照）を行った。

札幌市や北海道開発局などの行政担当者なども参加いただき、盛況であった。その後、北海道総支部会員や講演者との交流会を行った。

### 《2 日目》視察

2 日目は、バスで移動し、まず「エスコンフィールド HOKKAIDO」を訪れた。試合がない日にもかかわらず、観光バスが次々とやってきて、近代的な野球場や間近で見られる選手の練習の様子に興味津々であった。

次に訪れた「えこりん村」では、世界を舞台に活躍するガーデンデザイナーバニー・ギネスが設計した「銀河庭園」をガイドツアーで視察した。

環境に配慮したイングリッシュガーデンで、用水は地下水を使用し、農薬を使用しない栽培を継続実践しているそうで、庭園内には多くの野鳥や昆虫がみられ、豊かな自然を感じられた。高低差を利用したダイナミックさや遊び心もあり、まるでおとぎの国に来たかのような雰囲気をもつ庭園で写真を撮りたくなる風景であった。

残念ながら、「銀河庭園」などいくつかの施設は今年の 10 月 14 日をもって営業終了となるが、今後は「SDGs をテーマに楽しく学べる自然環境体験学習フィールド」に順次転換していくとのこと。

最後に、緑化フェア跡地の「はなふる」に立ち寄り、会議室を利用し会議を行ったうえで、園内を視察した。花の持つ力を生かし、市民と行政が一体となって「花のまちづくり」を進めてきた恵庭市、2020 年にまちのシンボルとなる花の拠点「はなふる」がオープンし、2022 年には全国都市緑化北海道フェア（ガーデンフェスタ北海道 2022）のメイン会場となり多くの来場者でにぎわったのも記憶に新しい。

緑化フェアが終わった今でも、様々なイベントが行われており、今回訪れた日も散歩や親子が遊具で遊び、多くの方が楽しんでいた。さすが『「恵まれた庭のまち』であると感じた。

### まとめ

今回は地域リーダーズ発足の地である北海道開催ということで、新たなメンバーも加わって親睦を深めつつ、今後の地域リーダーズ活動について活発な意見交換を行った。

今回の開催にあたり、北海道総支部会員、並びに（一社）北海道造園緑化建設業協会の皆様には、開催準備から当日の手伝い等、多大なるご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。



えこりん村（銀河庭園）

## 技術講演会 2024 「これからの造園技術者の ロールモデルを考える」

新千歳空港へ飛行機が降下を始めると眼下には深い緑の森と明るい緑の平原が広がる。札幌へ向かう車窓には平原に木柵が延び、森には白樺がくっきりと林立する北海道へ。

今回は造園業としてのロールモデル（企業と就業者）のあり方を話したい。それには地域リーダーズ誕生の地である北海道をスタートとして若い経営者に聞いてほしいと考え、当初は北海道の地域リーダーだった廣部氏に持ちかけた。

彼は早々に先輩たちと協議したらしく、3 月には北造協事務局から決定の報を受けた。そして、新年度、廣部氏は総リーダーになっていた。総リーダーの初仕事に相応しいと感じ入った。

講演会の第一部は埼玉県立秩父農工科学高等学校の栗原教諭から学校の現状を聞き、部会の出前講座でも体験するけれど、栗原教諭がなんとかヤンチャな生徒に道を開こうと孤軍奮闘の姿は胸に沁みだ。

私の前半は、部会の活動の広がりとして「これからの造園技術者のロールモデル」の概要を解説し、後半は廣部総リーダーと山田、

入山氏の 3 名の登壇により、彼らが記載している「私のこれまで・これから」を手元に、経営者、技術者、生活者としての今の考えを聞いた。

短時間だったが、参加者の手元に冊子は配布されたので、じっくり読んでいただきたい旨を伝えた。

とりわけ人材に関する課題の多い造園



建設業ではあるが、チャンスの時期でもある。新たな人材育成と柔軟な造園業経

営の未来につながることを祈念したい。（女性活躍推進部会部会長 酒井一江）

### 建設業の退職金制度 けんたいきょう

**条件 1**

過去に2年以上建設業界で働いていた

**条件 2**

共済手帳がお手元にある、または持っていた

これが共済手帳です

**条件 3**

建退共から退職金を受け取っていない

# 退職金

を受け取れる可能性があります

ご遺族の方も対象です

詳しい条件は

こちらからご確認いただけます

全ての条件に当てはまる方は、けんたいきょうにお電話を

## 0120-867-186

※条件に当てはまっても受給できない場合があります。

独立行政法人 勤労者退職金共済機構  
**建設業退職金共済事業本部**

〒170-8055 東京都豊島区東池袋1-24-1  
TEL. 03-6731-2866  
<https://www.kentaikyoo.taisyokukin.go.jp>

けんたいきょう 検索

受付期間 令和6年12月2日(土)～令和7年1月31日(土) 9:00～17:00 (土日・祝日・年末年始を除く)

長崎県 雲仙岳と天草を望める町 目の前に橘湾が広がる



山から流れてくるミネラル等を含んだ豊かな水が流れ込む橘湾

大崎町は急傾斜地で段々畑が広がり、水はけがよく有名なビワ（長崎の特産品）やミカンの産地です。その理由は東側が橘湾に面し、海風が程よくあたる上、太陽光が水面から反射し、満遍なく降り注ぐような恵まれた環境が甘い果物を生み出しているようです。

また山から流れてくるミネラル等を含んだ豊かな水が海に流れ込む、目の前の橘湾は、鱧、伊勢海老、渡ガニ、太刀魚、鰻、アオリイカ、サザエ、アワビ、タコ等、豊かな漁場を育てています。

大地と海の恵みは相互で循環し



形のいい真鯛

ていると感じています。私は裸潜りの漁業権を持っていて海で遊ぶことを趣味としています。

休日は桟橋に船を停めているので、5分～10分走らせると、水深40m以内の所で15cm～40cm位の真鯛がサビキ釣り（船用）でいい時は20匹前後釣れたり、秋には昔ながらの釣法で夜間、船をゆっくり進めながら（真竹で2m位の竿を作り）船の左右から13ひろ位ハリスを取って餌木を流し竿を出すとアオリイカが2時間～3時間位で10匹程度、釣れることがあります。

たまに潜る時はサザエ・アワビ・タコ・伊勢海老やワカメ・ヒジキ（3月～6月）・ウニ（6月頃）等、季節によって取れるものが変わってくるので、旬のものが食べられることはありがたいと思っています



渡ガニ(左) アオリイカ(右)



す。今、海の温暖化で、年々、漁獲量が減少している事態は身に染みて感じています。次世代に豊かな環境を譲り渡す責任があると思っています。

昔の人が大切にしてきたルールだったりを見返し継承し、これからもこの土地を大切に、ずっとここで過ごせることに感謝したいです。

長崎県支部 青山 真一郎（株長崎造園土木）



- 14(火)・神奈川造園人賛詞交歓会
18(土)・造園技術フォーラム部会
21(火)・総支部・支部交流会(沖縄)
23(木)・登録造園基幹技能者講習(福岡)～24(金)
25(土)・第51回全国デザインコンクール予備審査
26(日)・第51回全国デザインコンクール本審査会
29(水)・グリーンインフラ産業展2025～31(日)
30(木)・技術委員会(全国)予定
30(木)・登録造園基幹技能者講習(東京)～31(金)
31(金)・総支部・支部交流会(中国)

- スト版、動画を3月末までに制作予定。建災防の助成金を活用
●造園技術フォーラム
11/8 カルッツかわさきで開催
●技術・技能・調査部会
11/11 竹垣技法編を編集、2月中完成、3月に映像講義を撮影予定
●技能五輪全国大会
11/21-24 会場設営から大会運営を実施
●技能五輪等部会
11/23 今後の大会に対する協力体制、役割について審議
●地域リーダーズ会議
11/11 2月の徳島での勉強会の詳細、今後の地域リーダーズ活動について審議
●造園CPD推進委員会・企画部会
11/28 教育形態表の内容等について審議
●植栽基盤診断士認定試験(実地試験)
11/12-13 福岡、11/14 大阪、11/20 愛知
11/28-30 東京
●女性活躍推進部会
11/27 福島県立福島明成高等学校出前講座
●国際委員会
11/25 NAJGA シェリン前理事長来訪
11/23-29 AIPH タイ(コラット、ウドンタニ)査察
●2027年国際園芸博覧会特別委員会
11/19 AIPH コンペティション実施検討委員会

- 委員会等の活動
●広報活動部会
11/5 日造協ニュース11月号の内容確認、2025年3月までの記事構成について審議。造園フェスティバルのテーマを会員を対象に募集することを決定
●造園ワークポジショニングマニュアル編集会議
11/26 造園連と共同編集。マニュアルとダイジェ

編集後記 今年の流行語大賞は「ふてほど」だそうです。昔は当たり前だったことが、今では不適切といわれることが多くなりました、、、たまにあの頃は良かったなあと思う昭和世代です。



商工会を通しての地域貢献

私は、地元の商工会の女性部の副部長として商工会のさまざまな事業計画を通して、活動を行っています。

事業は、地元の小学校の交通安全普及、美化活動、高齢者へのまごころ宅配訪問、花いっぱい運動、米軍基地婦人会交流、女性セミナー交通安全お守り制作等、地元の事業等に取り組んでいます。

ほかに、地元の役員会のもとより、地区の理事会、県の役員会、女性部九州大会、全国大会が有り多忙な日々を過ごしてしています。

また、県外地域の、友好フレンドタウンシップ交流が有り、商工会も関わりを持ちながら、他県の商工会との繋がりが、交流を大事にしており、商工会ならではのお付き合いがあります。

商工会は、さまざまな業種のおつまる団体で、女性部の方も経営に携わっている方がほとんどで有り、一筋縄ではない所も有り、大変な時もありますが、そのことを、プラス思考として捉えるようにしています。

弊社は造園業として、緑化に携わる業者として、また、社長が樹木医として、町の文化財審議委員会の委員として頑張っていることで特に、町の美化、緑化は専門性をもって、私なりに町の景観づくりを商工会を通して、地域の活動を、



女性部あるいは会員と共に頑張ればと思います。

また、小学生児童の緑育にも取り組んでおり、町花がカンヒザクラで有り、町内にカンヒザクラを増やすことを計画しており、現在苗を育苗中でいずれは、町内をサクラで花いっぱいになりたいと考えています。

また農地の土地改良による地域種のケラマツツジが減少しているので挿し木をして、育てているのでツツジも子どもたちと一緒に山にかえす予定です。

今後は、女性の視点で、景観、緑づくりに携わり、商工会を通して地域に携わっていければと思います。

- 13(金)・植栽基盤診断士認定委員会
16(月)・造園ワークポジショニングマニュアル研修会議
19(木)・要望・提言活動部会
20(金)・街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会・グリーンインフラ産業展実行委員会
23(月)・(公社)2027年国際園芸博覧会協会第20回理事会
26(木)・戦略立案部会・全国造園デザインコンクール等推進部会コアメンバー会議

- 1月
7(火)・国土交通省、環境省ほか新年挨拶・2025年 新年造園人の集い

沖縄県支部 仲村 園子



事務局の動き

- 12月
3(火)・広報活動部会
4(水)・植栽基盤診断士認定委員会(試験部会)
6(金)・運営会議
・2027年国際園芸博覧会特別委員会
・建築工事監理指針改訂委員会 植栽及び屋上緑化分科会
・建築改修工事監理指針改訂委員会屋上緑化改修分科会
9(月)・CCUS能力評価制度推進協議会 企画分科会
10(火)・街路樹剪定士認定委員会(試験部会)